

## 事例A.ベティー(白人)

私の名前はベティーです。ミデルバークハイスクールのGr11(高校2年生)です。家から離れている学校に通っているの、生徒はみな寮生活をしています。家に帰ることができるのは年に4回、学期休みのときだけなので、家族と離れ離れなのがちょっと寂しいけれど……

2年目なのでもう慣れました。普段話す言葉はアフリカンス語です。周りは白人の友達ばかりなので不自由はないです。でもニュースや雑誌は英語のほうが多いので英語もがんばって勉強しています。他に数学、コンピューターの授業が好きです。歴史はあまり好きではありません。放課後にはネットボールをやっています。去年は補欠でしたが、私の学校州の大会で優勝しました。今年は念願のレギュラーになったので、今度は全国大会でいい成績が残せるようにがんばって練習しています。

学期休みには州都ネルスプリットの実家に帰ります。実家では母と弟が私を待っています。それと住み込みのお手伝いさんのマーガレットさん(黒人)。お料理が上手でついつい食べすぎてしまいます。父は金融関係の仕事でもう5年もイギリスに出張中。時々南アフリカに帰ってきますが、顔を合わせられるのはクリスマス休暇の時ぐらいかなあ。実家は町の中心からちょっとはなれた静かな住宅街。そこで思う存分イギリスやアメリカの音楽を聞くのが一番の楽しみです。それから時々、街のショッピングセンターに母と車で買い物に出かけます。学期中にお小遣いがたまっていたので、それでファッション雑誌と洋服を衝動買いです。え？お小遣い？月に400Rくらいかなあ。それと弟と一緒に地元のラグビーチームの応援にも行きます。応援団の皆さんとも大分仲良くなりました。あとは離れ離れの学校のお友達と携帯メールの交換。盛り上がっちゃってついつい夜中まで話し込んでしまいます。

不安なこともあります。一番は治安。家はセキュリティー万全でガードマンもいるのですが、どうやら私がいな間に3件隣の家が盗難にあったようです。先日は叔父さんが銃で脅されてカージャックに遭ったそうです。怖いので夜は外に出歩けません。犯人は決まって黒人。マーガレットさん以外の黒人はちょっと苦手です……

将来の夢はファッション関係の仕事に就くこと。雑誌やケーブルテレビで見るモデルさんはホントに綺麗で……モデルは無理かもしれないけれど、服飾関係なら自分も活躍できるような気がします。父のように私もどんどん海外へ出て活躍したいです。

## 事例B.ポーシャ(黒人)

私の名前はポーシャです。ベジルワジ・セカンダリースクールに通っている Gr11(高校2年)です。家から学校までは歩いて30分くらいなのでそんなに遠くはないです。住んでいるところは舗装道路も少ない旧タウンシップです。昔のアパルトヘイトの頃は大変だったらしいけれど、今も豊かではないなりに人々は明るくのんびりと過ごしています。学校へは友達とおしゃべりしに行くのがメインかなあ。勉強は難しいし先生の説明は分かりにくいし、教科書も友達と貸し借りしないといけないので大変です。放課後にはネットボールで遊んだり、近所のサッカーの試合の応援をしたりします。でもあまり長くは遊べないです。というのも家の手伝いがあるからです。

家に帰ると、水道から水が出る時はいいのですが、出ないときは近所の水汲み場に水汲みにいきます。それから晩御飯の準備。組んできた水で洗濯(手洗い)をすることもあります。時々母が仕事から早く帰ってくるときがあり、その時はご飯の準備をしなくていいので男友達、女友達とお散歩したり、近所の小さな子供達と遊んだりします。小さいころから面倒を見ているので子ども達とも仲良しです。家族は祖母、父、母、兄2人、姉、弟。父と母は共働きなので近所に比べればちょっと裕福かな?上の兄と姉は別の町で働いていて一人暮らしをしています。

普段の会話は部族語のンデベレ語で話しますが、学校の授業は英語がほとんどです。シヤブスワは部族が混ざっているのでソト語も話せます。学校ではアフリカーンス語も習うけれど難しいです。でもこれを勉強しないと就職に響きます。

お小遣いは趣味のビースアクセサリーを作って稼ぎます。ブレスレットやネックレスを作ると近所のおばさんが隣町のショッピングモールで露天販売してくれます。月に稼ぎは50Rぐらいかなあ。そのお金で友達とアイスを買って食べたりするのが一番の楽しみ。余った分はいざという時のために貯金しています。

不安なことは犯罪と病気。最近夜に銃声が聞こえるようになりました。本当に怖いです。それから兄2人の間にはもう1人兄がいましたが去年エイズで亡くなりました。医療状況全般も良いとは言えず、姉(未婚)の子どもも去年生まれてすぐに死んでしまいました。

将来の夢?私は看護婦さんになりたい。エイズだった兄や死んだ姉の子どもを見て、自分も医療のために何か手助けをしたいと思うようになりました。経済的には苦しいのですが、この夢を両親と上の兄に打ち明けたら、兄が学費の援助をしようと言ってくれました。とても嬉しかったです。その気持ちを無駄にしないためにも、学校の勉強をもう少しがんばって看護学校の入学試験をパスしたいと思います。